

2007年11月19日

国際高度情報化と新しい北九州研究会 設立趣意書

1. 名称

本会は、名称を「国際高度情報化と新しい北九州研究会」（以下「本会」という。）とする。

2. 設立の趣意

近年、世界の政治、経済、文化は、国境をこえて一体化と同時性、いわゆるグローバル化傾向が定着してきていると同時に、国ごとの主体性、地域性を再認識する動きが出てきていることも事実である。それらを側面から支える重要な要素である通信においては、情報を目的に応じて確実に伝達するという重要性がとみに増大し、その要求される形態、品質も多岐に渡っている。

一方、北九州市においては、情報通信を地域特性のひとつの核として取り上げているところである。

また、北九州市に近傍するアジア諸国、特に多様な意味で日本における歴史的に最大の相手国であり、そしてこれからもそうなるであろう中国は、直接隣り合う地域として北九州市が様々な影響を受け、また与えてきた国である。

こうした背景を踏まえ、中国との間、更にアジア諸国と北九州市との間におけるコミュニケーションのあり方、ネットワークのあり方、意義などについて研究することを目的として、各界の有志をもって本会を設立する。

3. 活動スケジュール

2008年7月を目途に完了。

4. 組織

- (1) 本会に、研究会、作業部会、研究会顧問、を置く。
- (2) 本会は、2ヶ月に1回の割合を目途に定例研究会を、作業部会は適宜、北九州市内において開催する。

5. 事務局他

本会の事務局を洞海マリンシステムズに置く。

6. 設立発起人

洞海マリンシステムズ(株)	代表取締役社長	今田 民壽
北九州市 産業学術振興局	新産業部長	松岡 俊和

以上

国際高度情報化と新しい北九州研究会 委員名簿

顧問：	参議院議員	自見 庄三郎
研究会委員：	北九州市 産業学術振興局 新産業部長	松岡 俊和（座長） （07年11月～08年3月まで）
	北九州市 産業経済局 新産業担当部長	江副 春之（座長）
	九州工業大学教授 情報工学部 電子情報工学科 教授	尾家 祐二
	財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 開発部長	梅本 浩史
	洞海マリンシステムズ（株） 社長	今田 民壽
	顧問	太田 亨
作業部会委員 （順不同）：	北九州市 産業学術振興局 新産業部 主幹	石松 毅彦（座長） （07年11月～08年3月まで）
	北九州市 産業経済局 新産業・学術振興部 重点産業担当課長 情報産業担当係長	篠崎 繁洋（座長） 水口 正克 村田 博茂
	財団法人九州ヒューマンメディア創造センター ICT推進室次長	井上 雄仁
	（有）ジョイゲート 代表取締役	末松 一英
	ザザグループ 代表	洞 皓人
	インターネット事業部 室長	栄利 昌義
	インターネット事業部 SE	長田 克朗
	（株）畑薬品 代表取締役	畑 実
	（株）西日本システム 代表取締役	五郎丸 正信
	国際ソロプチミスト北九州	阪本 千恵子
	（株）テクノワン 取締役会長	篠塚 忠二
	自見庄三郎事務所 秘書	江頭 清輝
	デンキの高島 代表者	高島 真由美
	（株）スターフライヤー 経営企画室マネージャー	丸龍 昇
	東アジアコミュニケーションズ（株）	今田 寿雄
	洞海マリンシステムズ（株）東京本部長	加藤 道夫
	東京本部顧問	石原 英雄
	本社 IT ルーム課長	千々木 順子
事務局：	北九州市産業経済局、洞海マリンシステムズ	

研究会議事要約

平成 19 年 11 月 30 日 16:00-17:50 第一回全体会議 議事

- 日本における国際海底ケーブルの現状・仕組み、環黄海海底ケーブル構想について
- 北九州-中国間の地域振興あるいは産業発展につながるコミュニケーションのありかたについて予備的意見交換

平成 20 年 2 月 13 日 10:00-12:00 第一回作業部会 議事

- E-port、ソフトバンク IDC、学術研究ネットワーク、大連ソフトウェアパーク、日韓コリドープロジェクトなど、北九州市をとりまく情報通信の実情について
- 光海底ケーブル敷設の実情とコスト（設置費・維持管理費）について
- 日中（アジア）間の IT 活用事例に関するコントリビューションの要請

平成 20 年 3 月 14 日 13:30-15:30 第二回作業部会 議事

- 各委員からのコントリビューションを基にした 16 件の日中（アジア）間の IT 活用事例の紹介と検討
- 最近の通信、インターネット関連の話題について（日米国間光海底ケーブルネットワーク「Unity」の共同建設協定締結、日本のインターネットトラフィックの総量、中国のインターネットの現状等）

平成 20 年 5 月 20 日 14:00-16:00 第二回全体会議 議事

- 前回作業部会の 16 提案と新たに加わった 5 提案を合わせた計 21 件の提案事例の概要紹介と作業部会による検討の報告
- 各提案事例の検討および意見交換
- 日中の通信事情に関する最近の話題について
- 研究会における情報並びに研究成果の取扱内規の説明と承認

平成 20 年 7 月 9 日 14:00-16:40 第三回作業部会議事録 議事

- 前回からさらに 4 件加わった計 25 件の提案事例の紹介と、性質別による提案のグループ分けについて
- グループ分けに基づく 8 提案の選択とその検討計画書について
- 各検討計画書についての意見交換

平成 20 年 11 月 28 日 16:00-18:00 最終全体会議 議事

- 報告書の承認

研究会に提出された資料リスト

注) ●印の付いた資料を添付資料（５）として添付

第一回全体会議 平成 19 年 11 月 30 日 16:00-17:50

- 国際高度情報化と新しい北九州研究会 設立趣意書
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会 活動とスケジュール
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会 委員（案）
- 北九州 e-Port フェーズ II プランの主なポイント
- 日本における国際海底ケーブルの現状と環黄海ケーブル ●
- 付録 国際海底ケーブルの仕組み

第一回作業部会 平成 20 年 2 月 13 日 10:00-12:00

- 北九州 e-PORT フェーズ II プランー2010 年をゴールとしてー ●
- ソフトバンク IDC 株式会社「アジア・フロンティア」の北九州市開設について ●
- 大連市のソフトウェア・情報サービス産業の状況について ●
- JGN II の概要 ●
- 日本ー韓国ケーブル・ネットワーク（KJCN）の運用開始について～日韓 IT 光コリドー・プロジェクト～ ●
- 光海底ケーブル敷設の現状とコスト ●
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会 作業部会へのコントリビューションについて

第二回作業部会 平成 20 年 3 月 14 日 13:30-15:30

- 国際高度情報化と新しい北九州研究会作業部会 ICT 活用提案事例集
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会 IT 活用事例
- 国際間通信ニーズおよびコンテンツ流通等に関する所見
- 精密加工技術の情報化
- 仮想日本デパート
- 日本～米国間光海底ケーブルネットワーク「Unity」の共同建設協定締結について（KDDI 社 ニュースリリース資料）
- わが国のインターネットにおけるトラフィック総量の把握（総務省総合通信基盤局 データ通信課 発表資料から抜粋）
- 中国のインターネットの現状（ジェトロ上海「中国インターネット時代の現状と施策」から抜粋）
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会における情報ならびに研究成果の取扱内規（案）

第二回全体会議 平成 20 年 5 月 20 日 14：00－16：00

- 作業部会提案事例説明集
- 作業部会提案事例提案属性
- 検討サンプルー連携授業国際人教育
- 検討サンプルー義烏プラス
- 作業部会提案事例補足資料
- 日中の通信事情に関する最近の話題 ●
- 国際高度情報化と新しい北九州研究会における情報ならびに研究成果の取扱内規（案）

第三回作業部会 平成 20 年 7 月 9 日 14：00－16：40

- 作業部会 25 提案事例提案属性（グループ化） ●
- 作業部会 25 提案事例分類表 ●
- 検討計画書
 1. 連携授業国際人教育
 2. 義烏プラス
 3. 日中間ビジネス支援事業
 4. 総合ショッピングレジヤーマール
 5. 中古車オークションサイト
 6. 食の安全情報発信
 7. 街頭風景 24H 映像投影
 8. 中国映像センター

最終全体会議 平成 20 年 11 月 28 日 16：00－18：00

- 国際高度情報化と新しい北九州研究会報告書（案）